

荒川の自然図鑑

# 荒川の 動物

荒川の  
自然のことなら  
ほくにおまかせ！



荒ヶ口くん

もくじ

- 3 ようこそ！ 荒川へ
- 4 荒川の自然観察スポット
- 6 荒川の代表的な自然環境
- 9 川のつくり
- 11 自然って何？
- 12 よみがえれ！ 荒川の自然 かつて荒川で見られた生きもの
- 14 よみがえれ！ 荒川の自然 エコロジカル・ネットワーク
- 16 この図鑑の使い方
- 17 フィールドマナー
- 18 用語解説
- 【図鑑】
- 19 ●ほ乳類
- 34 レッドデータブックとは
- 35 ●鳥類
- 106 荒川の、埼玉県 of 自然を取り戻す取り組み
- 107 ●両生・は虫類
- 132 子育ての時期は見守ろう
- 133 ●昆虫・クモ類
- 291 外来種が荒川の自然を壊す！
- 296 さくいん



## ◆ ようこそ！ 荒川へ ◆

海拔2,000mを超える<sup>こしがだけ</sup>甲武信ヶ岳を源流とする荒川は、129の大小さまざまな川の水を集めながら東京湾へ注ぎ込みます。その長さはおよそ173kmにもおよびます。その間、川の流れはさまざまな景観を生み出し、地域に潤いを与え、また山から海までの自然をつなぐ動脈の役割を果たします。

近年、開発が進み私たちの生活は便利になる一方で、各地で豊かな自然が失われてきました。川も例外ではなく、洪水の被害を少なくしたり、水やエネルギーを有効に使うための川づくりが進むなかで川の豊かな自然は減ってきました。

しがし、平成9年に川の法律が改められ、洪水対策や水の利用に加えて、環境という見方が川づくりに取り入れられることになり、それからは本格的に全国で川に自然を取り戻す取り組みがはじまりました。

かつて荒川では、春の河川敷は、まるでピンク色のじゅうたんを敷き詰めたようにサクラソウが咲き乱れ、周りの農地では、洪水によって運ばれる土の養分を田んぼや畑の肥料にしておいしい米や野菜づくりが行われ、子どもたちは水辺で時の経つのも忘れて野生の生きものたちと遊ぶなど、人々と川の自然は共に生きていました。

ふたたび自然豊かな荒川へ、そして私たち自身もより心豊かになることをめざして、荒川では自然を取り戻す取り組みが積極的に行われています。

本シリーズでは、荒川が生み出した自然環境を舞台としてくらす野生の生きものたちを紹介しています。さあ、本書を片手に荒川へ出かけてみませんか。そして野生の生きものたちを通して荒川の魅力を発見してください。





# 荒川の自然観察スポット

甲武信ヶ岳

川の長さ(流路延長)約173km、兩岸の堤防から堤防までの広さが日本一(平均1.5km、最大2.5km)の荒川には、小石のゴロゴロした砂れき河原や、おいしげるヨシ原など、川の流れによって生み出されたさまざまな自然環境が見られます。ここでは荒川中流域の代表的な自然観察スポットを紹介します。









### ●ヨシ原

水辺や湿地に見られる代表的な植物です。ヨシ原では希少な植物がたくさん生え、野鳥が子育てをし、根元のほうではヤゴなどの小さな生きものがくらしています。かつては、河川敷は一面ヨシ原でした。

【久下橋より下流・吉貝町】



### ●オギ原

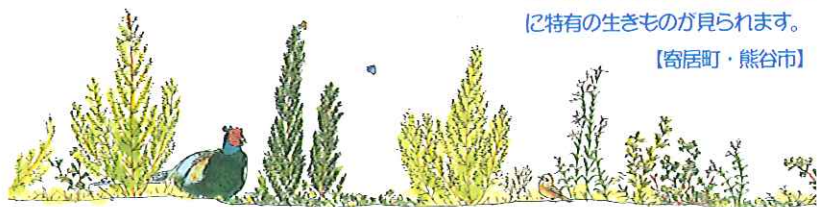
やや湿った、土のたまった場所で見られます。カヤネズミなどがくらし、チュウヒヤコミミズクが小さな動物をねらって訪れます。

【荒川全域】

### ●砂れき河原

砂や小石の河原で、洪水のときには水をかぶってかき乱されます。カワラサイコなどの希少な植物やカワラハツタなど河原に特有の生きものが見られます。

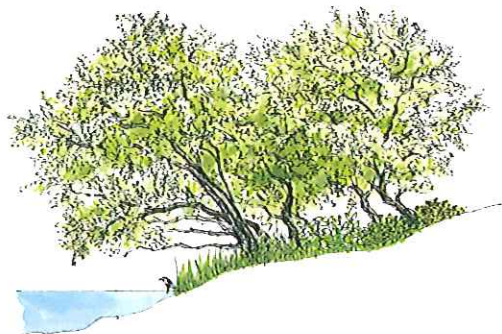
【寄居町・熊谷市】





### ●ハンノキ林

湿った場所に育ちます。荒川には関東で最大規模のハンノキ林が残っています。埼玉県の子ヨウで絶滅のおそれのある種、ミドリシジミの食樹です。  
【さいたま市・川島町・鴻巣市】



### ●ヤナギ林

荒川のほぼ全域に見られます。岸辺のヤナギ林は水面に影をつくり小魚たちのかくれ場所となっています。

【荒川全域】

### ●落葉樹林

高木で落葉樹のイノキ、ムクノキ、クヌギなどの林です。自然堤防上などで見られます。鳥がねくらにしたり、子育てをしています。

【荒川全域】





## ●多自然農地

昔ながらの田んぼや畑、素堀の土水路、屋敷林など野生の生きものがくらすことのできる、いろいろな環境が入り組んでいます。

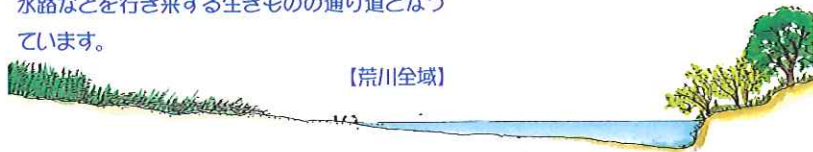
【さいたま市稲区塚本地区、鴻巣市糠田周辺、川越市握津地区、志木市宗岡地区など】



## ●流路

山から海の自然をつなぐ動脈です。瀬・淵などにそれぞれ生きものがくらし、また海～川～水路などを行き来する生きものの通り道となっています。

【荒川全域】

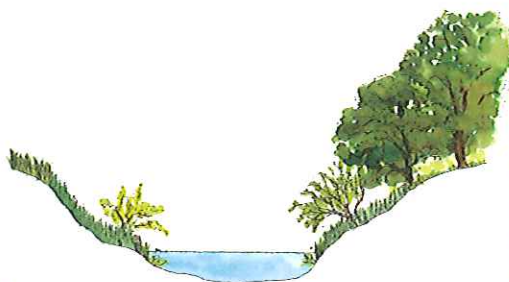


## ●昔の流れ きゅうりゅうろ (旧流路)

## ●池や沼

洪水や川の流れが変わることによって残った昔の流れ（旧流路）や曲がりくねったところに取り残されてきた池や沼は、貴重な野生の生きものの宝庫となっています。

【川島町・桶川市・上尾市・鴻巣市・吉見町】







## 川のつくり

川には、まわりの岩などを『けずり取る』、それらを『はこぶ』、『ためる』というはたらきがあります。この川のもつはたらきにより、流域にさまざまな自然環境が生み出されます。

### 上流では…

山の急斜面を勢いよく下る水の流れば、周りの岩などをけずり取り、V字形の谷をつくります。【巖谷地方】

### 扇状地では…

広くて地面の傾きが少しゆるやかになる山のふもとでは、流れの勢いが弱まるので、大きめの石がたまり、砂れき河原をつくります（山のふもとを中心に、扇を広げたようなかたちで石や砂がたまるので扇状地と呼ばれます）。【奇居町～花園町～熊谷市】

### 中流では…

地面の傾きはさらにゆるやかになり、水の流れは大きく蛇行しはじめ、砂などが川底にたまり砂州をつくります。【鴻巣市～北本市～川島町】

### 下流では…

地面の傾きはゆるやかなので水の流れもゆったりとします。支川などの水が加わり、広い川幅となります。海に近づくと、潮の満ち干の影響を受けて水位が大きく変動（感潮域）し、海水が混じります（汽水域）。【さいたま市】



### ● 集水域

地上に降った雨や雪は、地形などの条件に従って、上から下へと流れます。ひとつの川に流れ込む水の範囲を集水域といいます。



## 川の氾らんがつくる 自然堤防と後背湿地

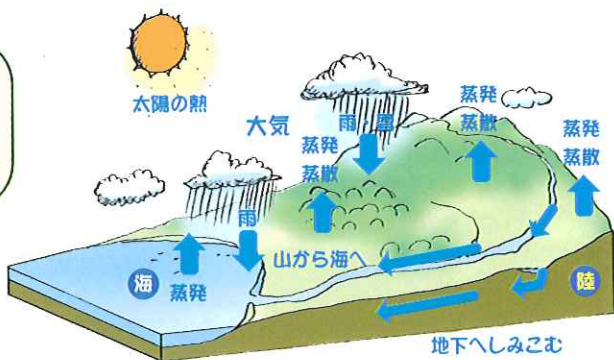
台風などで水が増えたとき、大量の土や石が一気に押し流され、中・下流では、ふだん流れている川すじを大幅に飛び越えて水があふれ出ます。このとき、川岸近くに大量の土や砂がたまり自然堤防とよばれる小高い場所ができます。またその裏側には後背湿地とよばれる湿地ができます。



## 水はめぐる

水の惑星、地球では決まった量の水が、姿を変えて地球上をグルグルめぐっています。太陽の熱によって地表や海などから蒸発した水分は、大気中で集まって雲をつくり、雨や雪となって地上へ降り注ぎます。地上に落ちた水は地下にしみこんで地下水となったり、地上を流れて川となります。この自然のサイクルが生み出すさまざまな環境のなかで、わたしたち人間を含め、あらゆる生きものがくらしています。荒川を流れる水もそんな水の旅の一場面なのですね。

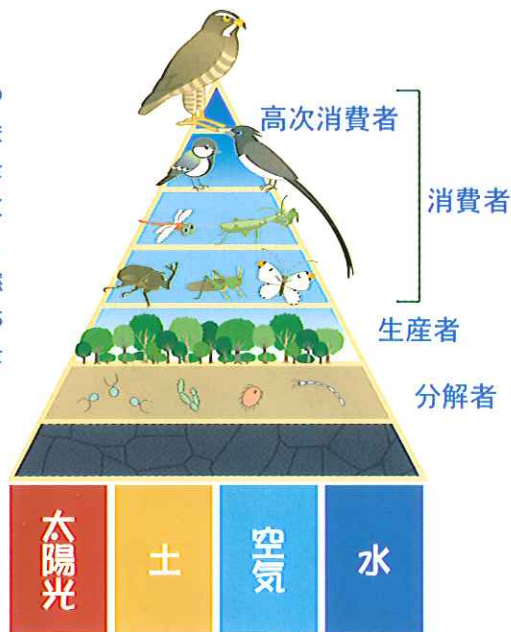
植物は、植物の体の中の水分が水蒸気として外に出されるよ(蒸散)。





## ●自然生態系

さまざまな野生の生きものは、「太陽光」「土」「空気」「水」の4つの要素を土台にしてくらしています。この4つの要素と「野生の生きもの」が複雑に関係しあってつくる世界を自然生態系といいます。荒川には水の流れが生み出す自然環境に荒川特有の自然生態系があり、そこにさまざまな野生の生きものがくらしています。



©(財)日本生態系協会

生態系ピラミッド



©(財)日本生態系協会

## ●いろいろな自然を使って生きている

野生の生きものが健全にくらすためには、林や水辺、草はらなどいろいろな自然環境がそろっていることが必要です。

…二ホンアカガエルの生活…





甲武信ヶ岳

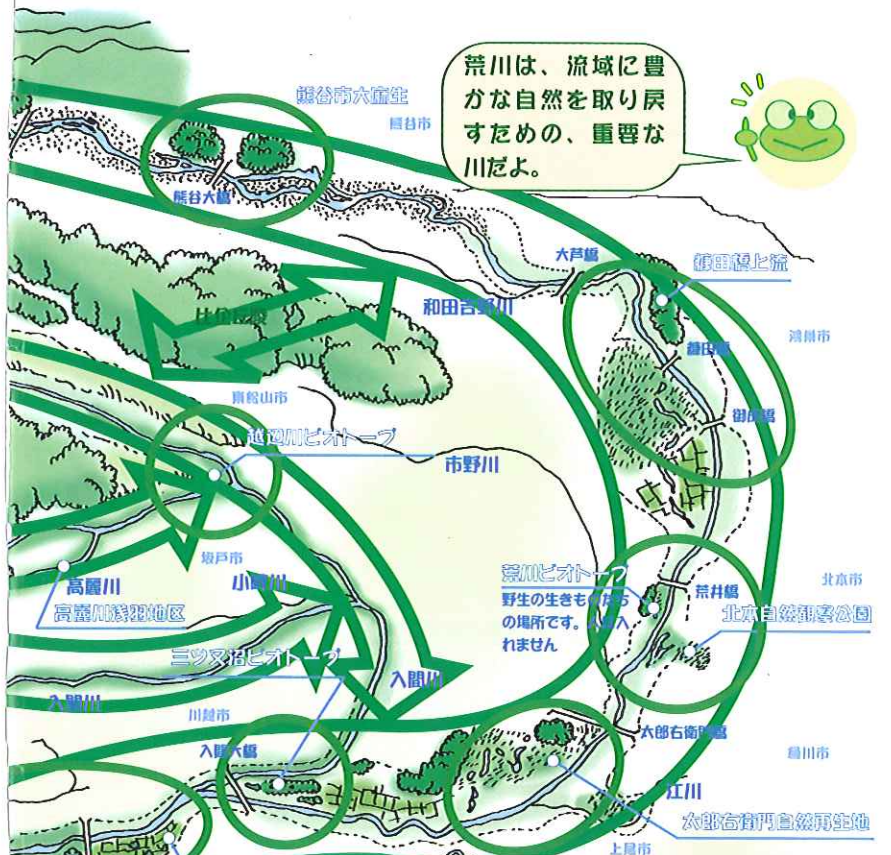
ほんの10～30年前まで荒川でぶつうに見られた野生の生きものが、今どんどん減っています。ここではかつて荒川で見られた生きもの、今ではとても少なくなってしまう生きものを紹介します。ここに紹介したような生きものたちが豊かにくらすことができるような荒川を再び取り戻すことが、これからの川づくりの目標です。











荒川は、流域に豊かな自然を取り戻すための、重要な川だよ。



**自然を取り戻すものさしとなる生きもの**

【希少生物・高次消費者・指標生物】

野生の生きものは、自然を取り戻すときの目印とすることができます。かつて見られた生きもの【希少生物】や生態系ピラミットの頂点にいる生きもの【高次消費者】、その環境に特有の生きもの【指標生物】を指標とし、これらの生きものがくらすことのできるような自然を取り戻すことを目指します。





# この図鑑の使い方

荒川（荒川上流河川事務所が管理する区域、支川の入間川・越辺川・小畔川・都幾川・高麗川・江川を含みます）では、ほ乳類6目9科19種、鳥類17目53科266種、両生類・は虫類4目12科24種、昆虫類20目284科1,954種、クモ類2目16科101種が確認されています（平成13年度河川水辺の国勢調査）。本書では、これらにヒオトープ等のモニタリング調査で確認されている種を加えた中から、荒川の環境を代表する種やよく見られる種を中心に229種（ほ乳類3目6科9種、鳥類13目27科60種、両生・は虫類3目8科16種、昆虫類12目57科138種、クモ類1目2科6種）を紹介しています（比較のために取り上げた種、図版のみ掲載した種を含めると290種）。

## 調べ方

調べたい動物発見！

ほ乳類、鳥類、  
両生・は虫類、  
昆虫・クモ類  
それぞれの  
「見るポイント」  
の頁へ

どんな場所で  
見つけたかを見る

色や形、大きさな  
どの特徴を見る

種ごとの解説  
頁を見る

種名・学名・科名の表示。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁・1993年）」『日本産野生生物目録 脊椎動物編Ⅱ（環境庁・1995年）』に準ずる。

その種類の大きさ

その種類が見られる時期（昆虫類の場合は成虫が見られる時期・両生類の場合は成体が見られる時期）。

その種類の写真

インテックス

その種類の解説

その種類の食べもの



国、埼玉県のリットデータブックに記載のある種類はそのカテゴリ一表示（34頁）。埼玉県のリットデータブックのカテゴリ一については全体的な評価を記載。

その種類が見られる景観

その種類が見られる景観の解説

その種類の生態、名の由来、関係のある文化や歴史などの紹介。



## フィールドマナー

未来の子どもたちも豊かな荒川の自然に親しむことができるよう、最低限のマナーを守りながら観察しましょう。



### よく見てみよう、でもとらないでね

地域の自然はよく見て、さわって、においをかいでみよう。ただし何年たってもそこで地域の生きものに出会えるよう、不必要にとらないで観察するだけにしましょう。



### 踏み荒さないでね

人が踏み込んでしまうと地面が固くなったり、湿地の植物などが生えられなくなったりします。観察路がある場合は観察路の上を歩いてください。ない場合もあちこち踏み荒らさないようにしましょう。



### 放さないでね

ベットとして飼っていた生きものを放さないでください。ベットは飼ったら最後まで責任を持って面倒を見ましょう。



### 汚さないでね

ゴミは持ち帰りましょう。汚れた水を流さないようにしましょう。生きもののおすみかを壊したり、危害を及ぼしたりすることになります。

### 自分の身は自分で守る

水辺には流れの速い場所や急に深くなっている場所、ぬかるんでいる場所などがあります。危険な場所には近づかないようにしましょう。また出かけるときは帽子、長そで、長スポンを着用し、歩きやすいくつをはきましょう。

**高水敷(河川敷)**

洪水の時に水が流れる部分。

**低水路**

ふだん水が流れている部分。

**河川区域**

高水敷と低水路、堤防の全部を合わせたところを指す。兩岸の堤防と堤防の間。

**かく乱**

川では、洪水などの時に大量に流れる水や土砂により、かき乱されること。扇状地などではこの作用により、河原植物などが育つことのできる環境となる。

**氾らん原**

上流から運ばれた土や砂がたまってできた平らなところ。洪水のたびに肥えた土が運ばれ、田畑の肥料にされるなど人の生活の場としても発達してきた。

**自然堤防・後背湿地**

大きな洪水の時に、大量の土や砂が押し流され、川の兩岸にたまってできた小高いところを自然堤防という。また、洪水時に自然堤防を飛び越えてあふれ出た水が洪水後もはげずにじめじめしているところを後背湿地という。

**旧流路**

洪水や川のつけかえなどで川の流れの筋が変わり、取り残された昔の流れ。貴重な野生の生きものが残っていることが多い。

**在来種**

長い年月をかけて地域の環境に適応し、進化してきた生きもの。地域にもともといた生きもの。

**外来種(移入種)**

人間によって本来分布していない地域へ運ばれ、運ばれた場所で繁殖している生きもの。帰化種とも呼ばれる。

**ビオトープ (biotope)**

野生の生きものがくらす場所のこと。語源はラテン語で生命を意味するbiosと空間を意味するtoposを合成してつくられたドイツ語。

**レッドデータブック**

絶滅のおそれのある野生の生きものの状況をまとめた本。日本全体での減少状況をまとめたもの(環境省発行)と都道府県の範囲内に生息する野生の生きものの減少状況をまとめたもの(都道府県発行)等がある。